

年頭所感

九州工業大学 学長 三谷 康範



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

明専会ならびに会員の皆様には、平素より本学の教育・研究ならびに学生諸活動に対し、格別のご高配を賜り、ここに深く御礼申し上げます。

まず、昨年の令和7年は、本学にとりまして記念すべき節目の年であり、飛躍の年となりました。文部科学省の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」に採択され、地域と世界を結ぶ研究・教育の中核拠点としての使命が一層明確になったことは、本学の長年にわたる不断の努力と、地域社会・産業界との緊密な連携の成果が高く評価された証であります。この採択は、今後のさらなる発展に向けた大いなる原

動力となるものと確信しております。

その象徴的な取り組みとして、同年11月には社会実装を担う新拠点「九工大未来テラス」を戸畑キャンパス内に開所いたしました。ここでは、地域課題の解決、産学官連携の加速、スタートアップ支援などを通じ、研究成果を社会に還元する実践的活動が展開されます。学生・教職員・企業・地域住民が交わる共創の場として、大いなる期待を担っております。

国際交流の面におきましても、対面での活動がさらに活発化し、韓国の昌原大学および釜山大学を訪問いたしました。殊に昌原大学では、私がお手を務めていた折に博士課程の学生として出会った方が現総長を務めており、同窓の縁を活かした交流が実現いたしました。こうした人的ネットワークの力が、国境を越えた学術連携の深化に寄与していることを改めて痛感した次第であります。

さらに、立命館アジア太平洋大学(APU)との協働による「大学の

国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」に採択され、社会課題解決に向けた国際的な共創が始まりました。この取り組みは、本学の研究成果をグローバルな文脈で活かす新たな挑戦であり、一層の国際化と社会的価値創出が期待されます。

また、リカレント教育の推進にも注力しております。一昨年設立した「(株)Kyutech ARISE」を中心に、社会人の学び直しを支援する体制を整備し、明専会の皆様に向けた講座の準備も進めております。卒業後も母校とつながりながら学び続ける環境が着実に整いつつあり、変化の激しい時代において技術者としての研鑽を重ねるための重要な基盤となるものと考えております。

加えて、各キャンパスにおける共創空間の整備や未来思考実証センターの活動も活発化しており、学生・卒業生・企業・地域が一体となって新たな価値を創出する取り組みが進展しております。こうした場を通じ、卒業生の皆様にも母校の現在を体感し、次世代との絆を深めていただければ幸甚に存じます。

そして本年令和8年は、情報工学部設置から40周年、生命体工学研究

科における学生受け入れ開始から25周年という二つの記念すべき節目を迎えます。AIやDXが社会のあらゆる分野で注目を集める中、情報工学部の先見性には改めて深甚なる敬意を表します。また、生命体工学研究科は、生命科学と工学の融合を先導し、医療・福祉・バイオ分野における革新を牽引してまいりました。この二つの節目を契機として、情報技術と生命科学の融合による新たな価値創出に向け、取り組みを一層加速させる所存です。

私の任期は本年3月をもって満了いたします。後任の安永卓生新学長が、さらに力強いビジョンを掲げ、本学の強みを活かして牽引していくことを確信しております。明専会の皆様におかれましては、引き続き本学の歩みにご期待いただくとともに、倍旧のご理解とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。この4年間の皆様との共創に深く感謝申し上げますとともに、今後のますますの飛躍を祈念して、ここに新年のご挨拶とさせていただきます。

令和8年が、皆様にとりまして実り多き一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。